

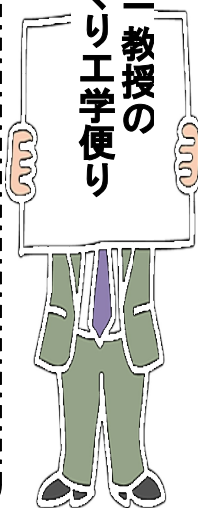
今から百五十年前頃の通信方法としては飛脚が全国を走り回っていました。この制度は戦国時代から発達し完全な整備が始まったのが徳川家康の代からで鎌倉時代に半分位システム化されていたのを江戸幕府が完成させました。

その拠点が宿場でここでは千住宿です。範囲は南千住・中村町・小塚原町と千住一〜五丁目と掃部宿・河原町・橋戸町からなり飛脚の中継地は千住一丁目にありました。問屋場と言われ、人馬を常に用意して置き飛脚人足が二人一組で走るか人足一人と馬一頭で走るかの方法が用意されていました。江戸から大阪までは一般飛脚だと25日かかったとされていますが、御用飛脚「幕府の大事な御用の場合」には昼夜、夜間でも関所を通り抜けられて約550kmを3日間で届けられたと言われていきます。これより早いのが「馬早飛脚」でしたが交通事故が多く幕府は禁止しました。継飛脚・大名飛脚・相場飛脚・定飛脚・三度飛脚・順番飛脚・町飛脚など出来て、幕末ごろには北海道の最北の地から九州の南の端の離島まで全国組織となつて明治の郵政事業へと引き継がれ発展しました。

江戸時代の日光街道は日本橋から室町・浅草橋・蔵前・浅草花川戸山谷・コソ通り千住大橋を渡つて北千住へ。因みに北千住の名称を使っているのは駅だけで地域の地名は全て「千住」だけです。現在の日光街道四号線は江戸時代は下谷道と言われていました。
万治二年（1659）に大目付兼道中奉行が設置され、四宿五街道が公用道路と定められました。奥州街道・日光街道が千住宿、東海道が品川宿、中山道が板橋宿、甲州街道が内藤新宿の五街道が幕府管轄となつたのです。
平成22年7月発行の原稿を再掲載致しました。

☆六郎が語る☆
南千住一口話
特別編 第106回

吉田喜一教授の
ものづくり工学便り



病院・整骨院通い

産技高専名誉教授 吉田喜一

これまで内科（血圧・中性脂肪）、整形外科（頸椎、腰椎）、泌尿器科（前立腺がん）の病院に伺っていました。これらに続き、最近眼科に初めてかかりました。おもに右眼がかすんで見えるようになったので調べていただきました。白内障とのことで、6月に手術することになりました。学生時代視力が落ちたので、メガネをかけるようになり、世の中こんなにすっきり・くつきり見えるんだ、と感激したことがあります。ポヤーっとした画像・風景を見てみると、頭の間もポヤーっとして、いい加減な仕事をしていたんだと分かりました。

頸椎・腰椎のリハビリ含めて、週の半分以上は病院・整骨院通いです。去年の私の医療費は26万円超でしたが、今年はおもつとかかりそうです。



梅雨入り前の「熊本市内」日帰り散歩旅行

消費生活
アドバイザー
佐藤祐一郎

こんにちは、メガネのサトウ4代目です。5月31日、LCCジェットスターで熊本日帰り旅に出かけてきました。窓から富士山や瀬戸内海、それから九州に入つてくじゅう連山の景色を楽しみ、阿蘇くまもと空港に着陸後、市内行きバスに乗り熊本県庁下車。庁舎内の郵便局で旅行貯金をしてから、歩いて水前寺上江津湖公園に向かいます。この日の熊本は気温30度越えの暑さでしたが、清らかな湧水に恵まれた湖のほとりで、野鳥のさえずりを聞きながら心地良いひと時を過ごしました。八丁馬場停留所から熊本市電に乗って、地震復興半ばの熊本城が見える通町筋停留所降り、下通り中華料理店「紅蘭亭」で昼食。熊本名物のたいぴん（春雨スープ）の付いたランチメニューを選びました。再び大通りに出て、路線バスに乗って浄住寺停留所下車、坪井4丁目の裏通りを目指します。この裏通りは少し変わっていて、片側は車道、もう片側は熊本電鉄の単線の線路敷になっている「併用軌道」なのです。電子音ではなく、「♪キンキンキン」と本物のベルが鳴るレトロな踏切警報音が響き、向こうからやってきたのは南千住で見覚えのある電車です。一昨年の2月にひっそりと引退した旧・営団地下鉄の03系車両が、短い2両編成に改造されて、遠く離れた熊本で再活躍しているのです。写真を撮った後、乗車してみると、少し前の日比谷線に乗っているような懐かしい感覚でした。旅の終わりに、市電の終点・健軍（けんぐん）町（まち）停留所近くの銭湯「たかの湯」に入ってサッパリし、番台脇の自販機でよく冷えた缶ビールを買って、グイッと飲み干したのです。



■メガネのサトウ ■ <http://megane-sato.com>
南千住5の43の13【東京新聞並び】
TEL 03（3806）4930
★休業日のご案内★
6月7月...毎週火曜日は、定休日です。

★営業時間のご案内★

※最新の情報は、ホームページ、Twitter、店頭掲示、お電話でご確認下さいませ。

平日（月〜金）：午前9時〜午後6時30分
土休日：午前10時〜午後5時